



冬仕舞(支度)

園内の木々もすっかり落ち、見晴らしがだいぶよくなりました。今までは隠れて見えなかった野鳥観察にはもったいない季節です。とはいってもギョーギョーと啼くカケスくんや、シジユウカラくん、ヤマガラくん、ヒヨドリくん、先日はカワラヒワくんも。今月から毎週月曜日が休園日となりましたが、それ以外の日はまさに“ひっそり”としまおります。雪に備え、園内の松木にはいよいよ雪吊りがお目見えしました。日本ならではの木へのいたわりが感じられる風景のあ



時間内ではあります。夕方4時をまわると薄暗くなり、5時の閉園時間を迎える頃には辺りは真っ暗。この時期うちの職員は帰りの駐車場までの道のりは懐中電灯がないと辿り着けません。園内で遭難しなければいいのですが、(少し大げさ)。(一)。12月21日の冬至を境に日が長くなつてくるので、しようけど、来年からは冬季の閉園時間の短縮、夏季は延長など季節に合わせた市当局への提案が必要かもです。「闇の民俗村」もいいものですが、なにせ冬は寒いし路面凍結なども考えられるので、闇の楽しみは夏にとつまあおきましょう。

コト八日(ことようか)

12月22日は旧暦11月8日、「コト八日」です。民俗村で行つてくる年中行事の一つですが、2月8日と11月8日に行つてきます(旧暦です)。多くは旧暦12月8日なのですが、この地方では一か月早い11月8日に行われていたようです。全国的に行われる年中行事のようですが、事始め(コトハジメ)と事納め(コトオサメ)と対になつて行う地域や、いづれか片方だけ行う地域。農作業の初めと終わりを指すところや、疫病神や妖怪などが現れる日として厄除け行事を行う地域、逆に良い神が訪れるとしてお供えをする地域、針供養だったり物忌みの日として山に入らない、仕事しない日としてる地域など、地域によつて様々な行事が行われています。

民俗村では黒岩地区に残る行事の様子を再現してあり、半紙に厄除け(鬼の顔を描いて「疫除け」と書く)を表し、門口に立めます。立花地区では昔はワラで作った怖い顔をした大きい人形を門口に立マましたよう、これも疫病神や災厄が家に入らないようにした厄除けの意味があつたのだでしょう。

コト八日に限らず、年中行事はいつでもどこで始められたものなのか?地域によつて大きな違いもあり「これが正解!」というものはないのではありません。現代であれば映像で残せたり、インターネットなども通じて日本全国、同じやり方で残つていくのではありません。口伝や記憶をたどつたということも考えれば当然のことといえます。ほかの地域との交流も現代ほどではないでしょうし、拡がって行く過程で変わりました。名称も訛つて伝わりました。また、明治になつて暦法が陰暦から変わったことや、祭日が神道祭祀を中心に定められたこと、生活様式が大きく変わったこと、民間信仰や習俗によつて行われなくなった年中行事が廃れなくなったのも仕方がない



いことなのかも知れません。民俗村では、今残されているものだけでも続け、どろ亀村長が平成4年の開村宣言で示した「かつま自然と人間がしっかりと結びついていた村の風景を思い出し、忘れ去られようとしている大切なものを甦らせることができる

場」を作つていきたいと思ひます。

十月桜 咲いてますよ!

園内にある十月桜(じゅうがつざくら)が、今月初めからポツリポツリとほころび始めました。小さい可憐な花です。春にも咲く、年に2度開花する桜(1粒で2度おいしいグリコみたい)ですが、注意して見ないと気付かないことも...(汗)

「桜はネパールなど大陸の内陸部が原種で、偏西風につつま日本へ。原種の桜は秋に咲くものなのだから。そこから云えば、十月桜のような秋に咲く桜は原種に近いのかも」とは北上さくらの会伊藤彬会長の弁。あまり元気がないのは日当たりや水はけなどあまり良い条件とは云い難いから?さっそく展勝地開園100周年実行委員会主催の「桜守講習会」で学んだ「施肥作業」をし、みよかちゃん。先生のお話では来年には根が育ち、2、3年後にはお花が元気になつてくるよ。100周年に向けて元気になるよ!



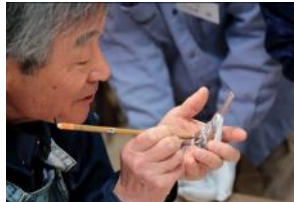


「バードカービング教室」

「みなさん、鳥が家の中に入ってきたまますよ〜」。小竹スズキさんはいえそうではあります。これはバードカービングと言った木彫りの鳥なのです。自然観察会にご参加いただいている方はご存じですが、講師の鈴木清明さんはこのバードカービングをされまわり、各地で製作指導もしています。趣味で始めた鈴木さんですが、全日本大会中級の部でも入賞したり、岩手県大会では最優秀賞を2度も受賞しています。鈴木さんが作る木彫りの精巧な鳥は、今にも羽ばたきそうなほど見事です。野鳥の会会員でもあることから、観



察の時の視点もかなりマニアックだとか。バードカービングはその精巧さから、近年では博物館などの資料展示として、時間とともに劣化するが、製にとつてかわるほどのようです。昨年は普段指導しているグループを対象に開催しましたが、今年初めの方も対象にしております。今回製作する鳥は「ルリビタキ」。その名のとおり瑠璃色が鮮やかな鳥です。削出し、磨き、目入れ、彩色、台座等の作業を行います。年明け2月6(土)・7(日)から毎週土日の全6回。午前9時から午後3時まで。会場は民俗村体験工房。定員は10人程度で先着順。参加料は3000円です。受付は1月8日から直接講師の鈴木清明さんにお電話でお申込みください。☎講師宅6715947



ルリビタキ



雪灯り中止(ガーン派)

過去2年にわたつたマ行われまきました冬の民俗村を雪灯ろうで彩る「雪灯り」(今年2月は「民俗村のべっこおかしな小正月」のイベント名)ですが、4月のさくらまつりから始まった「新型コロナウイルス感染拡大防止策」のもと、市内のイベントは軒並み中止となつており、雪灯りについても、ここに来る岩手県内が拡がらまきましている状況から、やむなく中止の決定がなされました。前回は積雪も少なく、夏油高原スキー場から雪を運び込み、何とか雪灯りや雪像、滑り台などを製作。今年の長期予報では多雪との報に喜んでいただけに、残念至極でございます。ということになりますのでお楽しみ



に。なお、令和3年の旧正月は2月2日、旧小正月は2月26日になります。「雪灯り」ほど派手じゃありませんが、来園くださる皆様と一緒に旧暦で新年をお迎えしましょう。



民俗村のこゝが見どころ

いも爺がお勧め!
北上市は南部藩と仙台藩の境界線上に位置する。寛永18(1641)年以降西は駒ヶ岳から東は太平洋の唐丹村まで境界線が敷かれ大小無数の塚が築かれた。殆ど風化されたが、ナンとその一つが民俗村に現存するのだ。しかも両藩が向かい合わせの「挟塚」という領境は珍しく国指定史跡となつている。一見の価値があるぞよ。健脚に自信のある方はハイキングコースを登ると、山上にも国指定の「檜坂挟塚(やぐらざかほさみづか)」が現存するヨ。



年末年始のお休み

12月28日から1月3日まで
年末年始休園のお知らせです。市内文化施設と同様となりますのでご了承ください。今年もみちのく民俗村をご愛顧いただきまして誠にありがとうございました。来年は展勝地開園100周年のほか、市制施行30周年、みちのく芸能まつり60周年とトリプルアニバーサリーと名付ける周年事業の重なる年です。コロナも収まったオンラインピックも無事開催される、明るい話題にあふれる一年であることを切に願っています。来年もよろしくお願ひ申し上げます